

季節別・主食及び食品群の出現状況

山口女子大 家政 ○本田テル子 西宮和江

(目的) 日本は四季の変化にとみ、人々もまた季節に対応した食生活を送っている。このような季節による食事内容の変動について、本報では主食及び食品群の出現状況から検討をおこない季節の影響をみることを目的とした。そのために対象を限定し環境による影響因子を考慮した。

(対象・方法・時期) 既報と同じく某石油工場勤務者のうち社宅居住者を対象とし季節ごとに3日間の食事調査をおこなった。調査用紙の配布方法は会社の衛生管理室を通して配布・回収した。記入の仕方については会社栄養士が主婦を集め事前に説明会をおこなった。

第1回	昭和55年7月～8月	(夏季)	248	世帯	回収率86,4%
第2回	昭和55年10月～11月	(秋季)	263	世帯	回収率91,0%
第3回	昭和56年2月～3月	(冬季)	209	世帯	回収率71,3%
第4回	昭和56年5月	(春季)	205	世帯	回収率70,8%

(結果) 季節別・主食の状況は、朝食ではパンの出現率が最も高く、次いで米飯・複数の主食の順である。昼食では米飯の出現率が高く、次いでめん、3位がパン又は複数の主食である。夕食は米飯の出現率が高く、朝食・昼食に多く出現しためん・パン等はわずかである。朝・昼・夕別の主食の出現傾向には季節による相違はみられなかつた。

季節別・副食の食品群の出現状況は、朝食ではいも類、緑黄色野菜、その他の野菜、果実類、魚介類、卵類、乳類、昼食ではその他の野菜、魚介類、肉類、乳類、夕食ではいも類、豆類、緑黄色野菜、果実類、魚介類、卵類の出現率に季節による相違がみられた。